

日本複合・防音床材工業会 令和4年度通常総会を開催

▼新会長に松川保氏（大建工業常務執行役員）が就任

日本複合・防音床材工業会は6月15日、通常総会を大手町東京会館で開催した。

正会員12社20名、賛助会員20社20名、来賓9名が出席。令和2年度、3年度の総会は新型コロナウイルスの影響により書面開催（事前にリモートによる説明会を実施）であったが、今回3年ぶりのリアル開催となった。

金田会長はあいさつで「昨年後半は需要に供給が追いつかない状況が続いた。またウッドショックを契機に国産材へのシフトの動きが強まってきている。これまでの経験では見通せないことがあると思うが、工業会としてはすべての人々に満足してもらえるような製品を供給していきたい」と述べられた。

工業会では今年度の主要事業として、前年度に続き「複合フローリングの床暖房への適合性試験規格」を含めた床暖房試験規格の運用を計画。多角的な制度設計の検討や関係機関との調整を進め、来年4月の運用開始を目指すこととしている。



＝挨拶する金田会長＝



＝松川 新会長＝

今回、任期満了に伴い、金田正樹会長（大建工業執行役員）に代わり、新会長として松川保氏（大建工業常務執行役員）が就任。副会長3人、専務理事は再任となった。

当日、外せない所要と重なったことから出席できなかった松川新会長からは「フローリングは人々の暮らしを支える住宅や建築になくはならないものであるという信念のもと、複合・防音フローリング業界の未来のため、皆様と一緒に活動をしていきたいと考えている。皆様のご指導ご鞭撻をたまわりながら工業会発展のため尽力したい。金田会長同様のご支援をお願いしたい。」との就任メッセージが寄せられた。

また総会後に林野庁木材産業課 齋藤課長による「最近の木材需給の変動への対応について」と題する講演会が開催された。会員は熱心に拝聴し、活発な質疑が交わされた。なお例年総会後に催される懇親会は今回見合された。

参考記事：日刊木材新聞社

